

目指す学校像	1 教職員の創意工夫を生かし、生徒一人ひとりが、挑戦し、煌く学校 2 よき伝統と校風を継承・創造し、安全安心で、地域に根ざし誇れる特色ある学校
重点目標	1 学びの自律化と個別最適化に向けた情報端末、スタディサプリの効果的な活用と授業改善 2 生徒理解に基づく教育相談・生徒指導と心の教育の充実 3 よき伝統と校風の継承・創造を目指し、地域とともに歩む学校づくり 4 一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地のよい（Well-being）学校をつくる教職員研修の充実

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価
年 度 目 標				年 度 評 価				
番 号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○ 全国学力・学習状況調査や市学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ下回っている。 ○ 市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、市平均と比べ、全体的に低い傾向にある。 (課題) ○ 全国学力・学習状況調査の結果分析から特に国語の「書くこと」「読むこと」及び数学の「数と式」「図形」の正答率が低く、基礎学力の向上が課題である。 ○ 学びに向かう力が高まっておらず、生徒が学習することの意義や充実感、達成感を味わえるようにすることが課題である。	・「個別最適に学ぶ」生徒の育成	①学習に対する苦手感を取り除き、学習に対する関心意欲を高めるための指導には I C T やデジタル教科書の活用やスタディサプリを効果的に活用する。 ②「学びの指標」の視点を参考に生徒の実態に応じた、わかりやすく楽しい授業を実践する。	①学校評価に係る生徒アンケート「教え方にいろいろな工夫をしていて、わかりやすい授業が多い。」の肯定的な回答 90%以上。 ②学校評価に係る生徒アンケート「授業の中、自分で考えたり考えを深めたりする機会がよくある」の肯定的な回答 90%以上。	ICT やデジタル教科書、スタディサプリの活用により、学習への苦手意識が軽減され、関心・意欲の向上が見られた。また、学びの指標を基に、生徒の実態に応じた分かりやすく楽しい授業を実践した。その結果、生徒アンケートで「教え方の工夫があり、わかりやすい授業」が 98.4%、「自分で考えを深める機会が多い」が 98.4%と高評価を得た。	A	一人ひとりの資質・能力の向上に向け、「自立した学習者」の育成を進める。個別最適な学びと協働的な学びの一層の充実に向け、基礎 GIGA 委員会を中心に、教科横断的に取組を進める。	定期テストが励みになっていない生徒もいる。生徒の学ぶ意義を高め、全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査においても、さらに高みを目指していってほしい。
		・「自発的な学習」をする生徒の育成	①見通しをもたせるために単元計画及び授業内目標を提示する。 ②多様な他者との話し合いを通じ、自己のキャリアを形成していくための「学級会の手引き」（小中一貫）を活用した学級討議を行う。（月 1 回）また、チャレンジスクールの効果的な利用を促す。	①生徒アンケートで「将来の夢に向かって生活や勉強の工夫をしているか」の肯定的な回答 90%以上。 ②生徒アンケートで「学校は差別やいじめがなく、思いやりのある友だちが多い」について、肯定的な回答 90% 以上。チャレンジスクール利用者の昨年度より 5%以上の増加。	単元計画や授業内目標の提示により、見通しをもって学習に取り組む姿勢が育成された。学級討議やチャレンジスクールの活用促進により、多様な対話を通じて自己のキャリア形成が進んだ。その結果、生徒アンケートで「将来の夢に向けた工夫」が 81.8%、「思いやりのある友人が多い」が 98.8%、チャレンジスクール利用者数も昨年度の 2 倍に増加した。	A	一人ひとりの資質・能力の向上に向け、「自立した学習者」の育成を進める。夢や目標の達成に向け、達成に向けた技術を身に付け、基礎 GIGA 委員会を中心に、非認知能力の育成を図る。	
2	(現状) ○ 全国学力・学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を大きく上回った。 ○ 昨年、校内でのケガや自転車の事故、生活習慣の乱れのある生徒がいた。 (課題) ○ 日頃からの教職員の努力により、生徒にとって居心地のよい学校づくりが構築されていることから基礎学力向上へと繋げていきたい。 ○ 教職員による施設設備の安全点検や交通安全指導を行うだけでなく、生徒自身が、自ら危険を予測し、回避する力を育むことが課題である。	・ 生徒一人ひとりへ寄り添った教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①スクールダッシュボードを活用し、生徒が生き生きと学べるためのプロアクティブな生徒指導及び、親身になって寄り添える教育相談体制（Sola る一むを含む）を確立する。 ②毎日の施設設備の安全点検の実施と新入生を対象とした自転車安全教室を地域の自動車教習所と連携して実施する。	①学校評価に係る生徒アンケート「先生は、悩みや相談に親身にになって対応してくれる」の肯定的な回答 95%以上。 ②学校評価に係る生徒アンケート「学校の施設や設備は安全で快適に生活が送れるようになっている」の肯定的な回答 90%以上。	スクールダッシュボードを活用し、生徒指導や教育相談体制（Sola る一む含む）を充実させ、生徒が安心して学べる環境を整えた。また、毎日の施設安全点検や地域と連携した自転車安全教室を実施した。その結果、生徒アンケートで「先生は親身に相談対応」100%、「施設・設備が安全で快適」96.8%と高評価を得た。	A	一人ひとりの心の安心・安全の向上に向け、「凡事徹底」「プロアクティブ」をキーワードに、生徒指導委員会、教育相談部会を中心に、スクールダッシュボードを活用し、今まで行ってきたことを一つ一つ丁寧に取り組む。	一人ひとりを大切に育んでいることがよく分かる。引き続き一人ひとりの生徒を伸ばしていってほしい。また、スモールステップを設定し、ほめる場面も多く設定し、さらに自己肯定感を高めていってほしい。
		・「健康で安全な生活の実現に自主的に取り組む」生徒の育成	①健康委員による校内の健康安全について調査し、発表していく活動を通して生徒一人ひとりが自主的に健康で安全な行動がとれるようにする。 ②煌委員会では、生徒自ら自主的に安全安心な学校生活について考え、全体に啓発していく	①学校評価に係る生徒アンケートにおいて健康に関連する肯定的な回答 90%以上。 ②学校評価に係る生徒アンケートにおいて「交通ルールを守り、安全に登校している」の肯定的な回答 90%以上。	健康委員による調査・発表活動を通じて、生徒が自主的に健康・安全な行動を意識するようになった。煌委員会では、安全な学校生活について考え、全体への啓発を行った。その結果、生徒アンケートで「健康に関する肯定的な回答」89.2%、「交通ルールを守り安全に登校」99.6%と高評価を得た。	A	一人ひとりの成長の基盤である生活習慣の向上に向け、スクールダッシュボードや健康・安全の面談や啓発を一層充実する。	
3	(現状) ○ 昨年度、本校学校運営協議会において学校教育ビジョンである「学力向上、自助・共助、人権教育」について熟議を積み重ねた。自ら課題を見出し、地域の方々と協働して課題解決していく生徒を地域全体で育てていくことを共有した。 (課題) ○ 今年度は、昨年度の学校運営協議会で共有した目指す生徒の姿を家庭、地域に広め、地域の方々と共有できるようにしていく。また、生徒の「学力向上、自助・共助、人権教育」についてさらに熟議を重ね、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動へ向け、歩みだす。	・ 学校教育ビジョンを地域全体で共有するための教育活動の公開	①本校 H P 内に学校運営協議会の情報を発信するページを作成し、学校教育ビジョンである「学力向上、自助・共助、人権教育」を広く共有できるようにする。 ②学校行事等について、学校に係る方々が参観できる仕組みを整える。	①学校評価に係る保護者アンケートにおいて「学校は、教育活動を保護者や地域の人々に公開していますか。」の肯定的な回答 90%以上。 ②学校評価に係る保護者アンケートにおいて「学校は、保護者や地域の人々の願いに応えていますか」の肯定的な回答 90%以上。	保護者に情報を発信するスクリレを開始し、学校運営協議会の情報を発信し、「学力向上・自助共助・人権教育」の取組の共有を促進した。また、学校行事を地域や保護者が参観できる仕組みを整えた。その結果、保護者アンケートで「教育活動の公開」97.4%、「地域の願いに応えている」94.8%と高評価を得た。	A	学校教育目標「自主自立をめざす生徒」に向け、学校運営協議会を中心に、保護者・地域の人々の願いを集めるとともに、学校の教育活動をスクリレや HP 等により地道に広げていく。	人権を大切にして取り組んでいることがよく分かる。このまま継続して取り組んでほしい。また、新 1 年生のつばみの日や地域イベントのときの中小学生の触れ合いを通し、中学生がよいロールモデルとなっており、ありがたい。
		・ 生徒の自立につながる継続的な取組に向けた慈恩寺中コミュニティ・スクールの策定と行動	①学習状況調査の結果分析等の客観的データを利用し、生徒の自律につながるコミュニティ・スクールへと成長を図るための計画を策定する。 ②策定した計画に基づき、具体的な方策を定め、学校と地域が協働した取組を始める。	①学校評価に係る保護者アンケート「学校は伝統や校風などを生かして、特色ある学校づくりを行っていますか」の肯定的な回答 90%以上。 ②学校評価に係る学校運営協議員アンケート「学校は保護者や地域の人々の期待や願いに応えていますか。」の肯定的な回答 3.0 以上。	学校運営協議会において、生徒の自律を促す取り組みを熟議した。そして、学校と地域が協働し、地域の取組を行えるよう、生徒ボランティアを募集し、延べ 250 名の生徒が参加することができた。その結果、保護者アンケートで「特色ある学校づくり」93.0%、学校運営協議員アンケートで「地域の期待に応えている」100%と高評価を得た。	A	学校教育目標「自主自立をめざす生徒」に向け、学校運営協議会を中心に、「ふれあい」「助け合い」をキーワードに、生徒が参加し、楽しみ、成長する取組を行う。	
4	(現状) ○ 新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとした I C T の活用方法について、エバンジェリストや研究主任らが中心となり研修を重ねてきた。 (課題) ○ I C T の活用については、職員間で取組の差が見られるが、誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。	・ 教職員研修の充実	①一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を設定し、目標達成に向けた授業を学期に 1 回以上公開する。 ②スタディサプリ活用研修、STEAMS TIME 研修、人権講演会等の研修会を実施する。	①学校評価に係る教職員アンケート「生徒が進んで学べるよう、学びの指標の質問項目を意識し、授業の改善に努めたか。」肯定的な回答 3.0 以上。 ②学校評価に係る教職員アンケート「学習指導に ICT 機器を効果的に活用できたか。」肯定的な回答 3.0 以上。	教員は授業改善の目標を設定し、学期に 1 回以上の公開授業を実施した。また、スタディサプリ活用研修や STEAMS TIME 研修、人権講演会を行い、指導力向上を図った。その結果、教職員アンケートで「学びの指標を意識した授業改善」3.2、「ICT 機器の効果的な活用」3.3 と、いずれも基準を上回る評価を得た。	A	教職員の資質・能力の向上に向け、研究課題を「個別最適な学びと協働的な学びの一層の充実」とし、基礎 GIGA 委員会を中心に、教科横断的に取組を進める。	小学校で、4 年生から教科担任制となっている。そこで、次年度は、小中学校の教職員の相互授業参観の機会をもち、互いに学び合えるとよい。スタサブを活用した学習についても連携していきたい。

学 校 教 育 目 標	自主・自立をめざす生徒
目 指 す 学 校 像	努力して夢を実現する学校（努力夢現）

重 点 目 標	1 自立した学習者の育成 2 生徒理解に基づく生徒指導・教育相談の充実 3 保護者・地域との連携と信頼関係の深化 4 健康でたくましい生徒の育成と教育環境整備の充実 5 教職員の資質向上とチーム力の向上
---------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	学びの指標を基に、生徒の実態に応じた分かりやすく楽しい授業を実践し、ICT やデジタル教科書、スタディサプリの活用により、学習への苦手意識が軽減され、関心・意欲の向上が見られた。また、単元計画や授業内目標の提示により、見通しをもって学習に取り組む姿勢が育成され、学級討議やチャレンジスクールの活用促進により、多様な対話を通じて自己のキャリア形成が進んだ。しかし、全国学力学習状況調査、さいたま市学習状況調査において、「学習の習熟度」に課題がある。また、将来に向けた「努力」に関する非認知能力に課題がある。	自立した学習者の育成	・授業の基本「授業規律」の徹底 ・基礎学力定着を目指す指導法の工夫 ・アナログとデジタルのベストマッチの授業実践 ・個別最適な学びと協働的な学びの充実 ・単元内個別進度学習による授業実践	生徒アンケート「学び合い、話し合い、考えを深めることのできる生徒」「自ら課題を見つけ、自ら考え、解決できる生徒」「ICT 機器を効果的に活用できる生徒」の項目で、肯定的な回答を 90%以上にする。					
		キャリアプランニング能力の育成	・SCS、マンダチャートを活用した意識の高揚 ・スタブによる学習の個別最適化の充実 ・テスト計画表の作成指導の充実 ・提出物を全員回収する。 ・自制心とやり抜く力の育成	生徒アンケート「将来の夢や希望を持ち、自分なりに努力できる生徒」「スタディサプリなどを活用し、家庭学習ができる生徒」「定期テストに計画的に取り組める生徒」の項目で、肯定的な回答を 90%以上にする。					
2	スクールカウンセラーを活用した生徒指導や教育相談体制（Sola る一む含む）の充実により、生徒が安心して学べる環境となり、毎日の施設安全点検や地域と連携した取組により、安心安全度合が高い状態である。また、健康委員や煌委員会による調査・発表活動により、生徒が自主的に健康・安全な行動に対する意識が高まった。今年度も引き続き、よい状態を継続していきたい。	生徒理解に基づく生徒指導の充実	・ダメなものはダメの指導の徹底 ・自ら進んで貢献する生徒の育成、煌賞 ・先手の挨拶、言語環境を整備し、適切な言葉遣いができる生徒の育成 ・生徒会活動、部活動の充実 ・道徳教育の充実	生徒アンケート「あいさつや時間を守り、清掃がしっかりできる生徒」「行事や生徒会活動を自主的に進めることができる生徒」「交通ルールを守り、安全に登校できる生徒」の項目で、肯定的な回答を 90%以上にする。					
		生徒理解に基づく教育相談の充実	・プロアクティブな教育相談活動の充実 ・特別支援教育の充実 ・生徒の居場所づくり ・SOS の出せる生徒の育成 ・スクールカウンセラーの有効活用	生徒アンケート「差別やいじめを許さず、思いやりのある生徒」「困ったときに、悩みや相談ができる生徒」の項目で、肯定的な回答を 90%以上にする。					
3	学校行事や授業参観、保護者にスクレ配信により、より学校の様子が分かるようになった。学校運営協議会において、「学力向上・自助共助・人権教育」のビジョンを共有・熟識し、生徒ボランティアが盛んになってきた。今年度も引き続き、学校公開と学校運営協議会のビジョンの共有と取組の熟識を行っていききたい。また、同会議に生徒の参加も進めたい。	地域とともにある学校づくり	・コミュニティ・スクール協働ビジョンの推進（学力向上、自助・共助、人権教育） ・積極的な授業公開 ・情報発信の充実（HP、スクレ、たより）	保護者アンケート「学校の様子を分かりやすく伝えている学校」「保護者や地域に教育活動を公開している学校」「地域と連携した特色のある取組がある学校」の項目で、肯定的な回答を 90%以上にする。					
		地域の期待に応える学校づくり	・地域人材を活かした教育活動の推進 ・未来の地域の担い手、エージェンシーの育成 ・生徒1人年1回以上、ボランティア活動の参加促進	保護者アンケート「保護者や地域の人々の期待や願いに応えている学校」「地域の行事に関わっている学校」の項目で、肯定的な回答を 90%以上にする。学校運営協議会で取組を行えたか。					
4	教育環境の根本である生徒の基本的生活習慣においては、概ね良好である。また、給食や学校施設の安心安全、予算執行においてもしっかりと整備・実施されており、よい状態である。今年度も、引き続き、よい状態を継続していきたい。	健康教育の充実	・基本的な生活習慣の確立 ・生命尊重教育、人権教育の充実 ・自己の健康管理の充実 ・進んで体力向上に努める生徒の育成 ・小・中一貫教育の推進	生徒アンケート「睡眠・食事等、常に健康に気をつけている生徒」「意識して体力づくりを行っている生徒」「部活動などに楽しく、意欲的に参加できる生徒」の項目で、肯定的な回答を 90%以上にする。					
		教育環境の整備の充実	・自ら進んで安全な生活ができる生徒の育成 ・学校施設点検と即時修繕の徹底 ・献立を生かした給食指導の充実 ・学校予算の効果的な活用	生徒アンケート「施設や設備が安全で快適である学校」「避難経路や指示が分かりやすく避難行動がとれる学校」「給食が安心安全である学校」の項目で、肯定的な回答を 90%以上にする。					
5	授業改善に向けた公開授業の実施、スタディサプリア活用研修や STEAMS TIME 研修、人権講演会を行い、指導力向上を図り、教職員のスキルが上昇した。今年度も更なる向上を目指し、研修を進めていきたい。	教職員の資質向上	・研修履歴を活用した自主研修の実施 ・人事評価面談による意識の高揚 ・相互授業参観（年3回）の実施 ・校務分掌等 OJT により実践力の育成	学びの指標で 80%以上、教職員アンケート「学校目標に向けた指導」「将来の夢や希望に関する指導」「校内研修」の項目で、肯定的な回答を 80%以上にする。					
		チーム力の向上	・組織の一員として協働作業の充実 ・教育公務員として信頼される誠実な行動の促進 ・業務の見直しの強化 ・仕事分担の公平化	教職員アンケート「生徒との対話」「報告、連絡、相談」「家庭や保護者との連携」のの項目で、肯定的な回答を 80%以上にする。					